

令和 6 (2024)年度 事業報告

(令和 6 (2024)年 4 月 1 日～令和 7 (2025)年 3 月 31 日)

(はじめに)

大阪対がん協会は、平成 25 (2013)年 8 月 1 日付で旧財団法人から公益財団法人に移行した。
今回の事業報告は、公益財団法人に移行して 12 期目であり、報告期間は、令和 6 (2024) 年 4 月 1 日から令和 7 (2025) 年 3 月 31 日までである。

《公益目的事業》

(公益目的事業 1 (公1)) 普及・啓発活動:啓発イベント開催・情報発信・がん検診の奨励

【がんに関する啓発イベント】

○主催行事

① 成人病公開講座

大阪国際がんセンター、大阪成人病予防協会とともに4回開催した。いずれも講演を録画し、後日映像を公開した。各回とも大阪国際がんセンターの医師を中心とした講師が、図や表などを交えて、分かりやすく説明している。各回のテーマと講師は、次のとおりである。

回数	公開期間	テーマ	講 師
103 回	6 月 20 日～ 9 月 24 日 (6 月 12 日収録)	「正しく知ろう！がんゲノム医療の最前線」 ・がんゲノム医療 その現状と課題 ・がんゲノム医療と遺伝性腫瘍 ・がんゲノム医療コーディネーターとは？ その役割と取り組み	【大阪国際がんセンター】 ・座長 副院長 宮田博志 ・遺伝子診療部/がんゲノム診療科 部長 杉本直俊 ・遺伝子診療部/遺伝性腫瘍診療科 遺伝カウンセラー 井上田鶴子 ・副看護部長兼がん看護専門看護師 相談支援センター/リソースナースセンター 副センター長 北坂美津子
104 回	10 月 3 日～ 12 月 24 日 (9 月 25 日収録)	「食道がん・胃がん治療の最前線」 ・早期胃がんの内視鏡診療～どう診る？ どう治す？～ ・食道がん治療における新しい取り組み～ロボット手術から免疫療法まで～ ・胃がん外科治療における最新のトピックス～より安全に、より効果的に～	【大阪国際がんセンター】 ・座長 副院長 宮田博志 ・消化管内科 医長 加藤 穰 ・消化器外科/食道外科 副部長 金村剛志 ・消化器外科 副部長 胃外科科長 胃がんセンター センター長 山本和義

105 回	11 月 21 日～ 2 月 20 日 (11 月 13 日収録)	「消化管腫瘍 内視鏡治療の最前線」 ・早期胃癌および胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡治療（先進医療） ・十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療の取り組み ・下部直腸腫瘍に対する新たな内視鏡治療	【大阪国際がんセンター】 ・座長 副院長 宮田博志 ・消化管内科 副部長 七條智聖 ・消化管内科 副部長 吉井俊輔 ・消化管内科 副部長 金坂 卓
106 回	2 月 19 日～ 6 月 11 日 (2 月 12 日収録)	婦人科がん 予防と早期発見と先端医療 ・女性を支える先端医療 低侵襲(ていしんしゅう)手術で切り拓く治療の扉 ・その症状大丈夫？ 早期発見につながるチェックポイント ・若い世代を守るために！ HPV ワクチンの役割と普及の課題	【大阪国際がんセンター】 ・座長 副院長 宮田博志 ・婦人科 診療主任 山部エリ ・婦人科 部長 北井美穂 ・婦人科 部長 北井美穂

② がん予防キャンペーン大阪

「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会が主催するシンポジウムは、大阪府のがん死亡率とがん検診率を改善することを目的として実施されている。

毎年、当協会は実行委員会を構成する主催11団体の一つとして参加しており、構成団体は、他に大阪府、大阪市、大阪府医師会などで、実行委員会事務局は大阪がん循環器病予防センター内に設置されている。

がん予防キャンペーン大阪 2024 講演会

「知っておきたい。胃がん検診と最近の治療法」

日 時:2024 年 10 月 10 日(木) 午後2時～3時半

会 場:OMMビル1階 グラン 大阪市中央区大手前 1-7-31

主催者:大阪府、大阪市、一般社団法人大阪府医師会、公益財団法人大阪対がん協会、一般財団法人大阪府結核予防会、大阪府地域婦人団体協議会、大阪市地域女性団体協議会、公益財団法人大阪成人病予防協会、公益財団法人大阪府保健医療財団

※上記講演会の動画公開期間 2024 年 11 月1日(金)～2025 年 3 月 31 日(月)

③ オンコロモーション認定指導員の認定事業

2023 年 11 月に、がんに関する高度な専門知識と職業倫理を有し、がん患者さんとそのご家族に寄り添うことのできる運動指導員育成のため、がんサバイバーシップの強化に繋げ、「がんと診断されてからの生き抜くプロセスを手助けするとともに、がん医療の発展への寄与となることを目指して、「オンコロモーション認定指導員」の資格認定事業を大阪府知事の承認を受けて第1回目の認定試験を実施し、受験者9名、合格者9名の「オンコロモーション認

定指導員」の有資格者が誕生した。

2024年度は、公益社団法人大阪府鍼灸マッサージ師会や医療大学、専門学校との受験資格に係る受講のシステム導入の調整に時間を要したことなどから受験資格対象者が不在となり、第2回目の試験は未実施となった。しかし、2025年度については、関係機関との受講のシステム導入に係る調整が整い、受験資格対象者が相当数見込めることになり、2025年11月に資格認定試験を実施する予定である。

④ がん患者支援活動

がん患者さんやその家族は、様々な悩みや不安を抱えている。それらを少しでも解消するために元医療従事者(看護師等)が相談等に対応することが非常に重要な状況となっている。そこでがん患者支援として、がん患者さんやその家族からの各種相談に対応するため、非常勤の相談員(元看護師)を雇用するとともに、「NPO法人つながりひろば」の協力を得ながら、病気のこと、診察や治療のこと、日常生活のこと、家族との接し方、医療者への不満などの相談に対応した。

⑤ 患者会等への支援活動

患者会等からの依頼に基づき、イベントのPRなど、告知面で協力した。また、患者会等へ小冊子等の配付、各種情報提供を行った。

○共催・協賛・後援行事

特定非営利活動法人、学会、医療機関などが主催するイベントに対して、「共催」「協賛」「後援」による支援を行っており、今年度は以下のイベントに対して実施した。

【共催】

① OICIセミナー

「転移性がんの新しい治療法」

実施日:2024年11月18日

講演者:Boston Children's Hospital and Harvard Medical School

Dr. Bruce R. Zetter

場 所:大阪国際がんセンター大講堂

共催者:大阪国際がんセンター、公益財団法人大阪対がん協会

【協賛】

① AYA世代振袖無料撮影会

開 催 日:2024年7月13日(土)14日(日)15日(月・祝)20日(土)21日(日)

開催場所:photo studio N+ (大阪市中央区)

主 催 者:CANCER PHOTO PLUS

協 賛 者:大阪国際がんセンターAYA世代サポートチーム、公益財団法人大阪対がん協会、NPO法人つながりひろば

後 援 者:AYAweek2024

【後援】

① つながりひろば講演会

「がん患者と家族のための訪問診療」

開 催 日:2024年9月28日(土)

開催場所:大阪府立中央図書館ライティホール

主 催 者:特定非営利活動法人 つながりひろば、

後 援 者;公益財団法人大阪対がん協会、公益財団法人大阪成人病予防協会、大阪国際がんセンター

- ② 2024 年度 頭頸部外科月間キャンペーン
ー第3回市民公開講座ー
開 催 日:2024 年 6 月 30 日(日)
開催場所:朝日生命ホール
ー口腔がん無料検診ー
検 診 日:2024 年 7 月 1 日(月) ～ 31 日(水)
実施場所:大阪府下協力医療機関(耳鼻咽喉科・頭頸部外科) 約 90 件
主 催 者:一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪府地方部会
一般社団法人大阪府耳鼻咽喉科医会
後 援 者:大阪府、大阪市、大阪府医師会、公益財団法人大阪成人病予防協
会、公益財団法人大阪対がん協会
- ③ 第 17 回「ピンクリボン大阪 2024 女性がんの検診啓発 ～ピンクリボンまつり in 大阪～」
開 催 日:2024 年 10 月 20 日(日)
開催場所:りんくうプレジャータウンシークル観覧車前広場
主 催 者:特定非営利活動法人ピンクリボン大阪
後 援 者;厚生労働省、大阪府、大阪府医師会、大阪府女医会、公益財団法人大
阪対がん協会 ほか
- ④ RCJ 希少がんキャラバン事業
「語り合おう！ 希少がん in 大阪」
開 催 日:2024 年 11 月 4 日(月・祝)
開催場所:大阪国際がんセンター 1 階大講堂
共 催 者:一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク Rare Cancers
Japan(RCJ)、大阪国際がんセンター 他
後 援 者:九州大学病院、名古屋大学医学部附属病院、岡山大学病院、日本対
がん協会、大阪対がん協会、全国がんプロ協議会 他
- ⑤ がん教育の普及・促進プロジェクト
「がんサバイバーメッセージ動画の視聴」
「がん出張授業の実施」
共 催:朝日新聞社メディアビジネス局、小野薬品工業株式会社
後 援:文部科学省、大阪府教育庁、日本医師会、大阪府医師会、大阪対がん協会
日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会
概 要:2024 年 11 月～2025 年 4 月
大阪府内の高等学校 3 校(四条畷・茨木・大阪星光学院高等学校)にお
いて動画の視聴、松浦成昭総長(会長)等による講義、質疑応答を行っ
た。
※がんサバイバー動画については、YouTube 及びホームページで閲覧で
きるようにしています。(2023 年 11 月 14 日掲載)
- ⑥ 第 8 回日本リンパ浮腫学会総会
開 催 日:2025 年 3 月 15 日(土) 16 日(日)
開催場所:大阪市中心公会堂
主 催 者:一般社団法人日本リンパ浮腫学会
後 援 者;大阪府医師会、大阪府看護協会、大阪対がん協会

【がんに関する情報発信】

① 小冊子「進め！がん防衛隊 大阪のがん事情 3rd Edition」の発行・配付

本年5月に約4年ぶりの改訂版を発行した。今回は、全般的に見直しを行い、より分かりやすい内容に改訂した。また、多くの方にご覧いただくために 8,300 冊発行し、今年度は、約 3,100 冊配付している。配付先としては、個人会員、法人会員、正会員、大阪府がん拠点病院、がん患者会等に配付し、大阪府がん拠点病院やがん患者会等からは内容が非常に分かりやすいので関係者にも配りたいという連絡があり追加配付している。

また、別にがん検診を勧める啓発チラシを2種類作成し、会員等に配付した。

② 協会ホームページ

インターネットによる情報収集の広がりに対応するため、2010 年 5 月に協会ホームページを開設し、15 年目を迎えた。

内容の充実を図るとともに内容を更新し、最新の情報提供に努めた。

協会が主催・共催・後援するイベントの告知、がん研究助成奨励金事業の詳細を掲載するほか、決算書などの情報公開資料も開示している。

③ 事業概要・協会報

本年 8 月に「令和5（2023）年度事業概要」を発行した。2023 年度の事業内容や寄付者名簿のほか、がん研究助成奨励金受賞者も併せて掲載した。

協会報は、例年どおり6月と12月に発行した。

【日本対がん協会関連事業】

「日本対がん協会大阪府支部」として、がん征圧事業で連携、協力を進めた。

① がん征圧月間・がん征圧全国大会

毎年9月を「がん征圧月間」として、日本対がん協会が展開する各種事業に参加・協力した。主な行事として実施されている「がん征圧全国大会」(9 月 12 日(木)～13 日(金))に参加した。

また、共通デザインの「がん検診の推進」と「禁煙」の2種類のポスターを各 70 枚作成し、大阪府医師会、大阪府看護協会など関係各団体へ送るなど、征圧月間の目的であるがんの予防知識や早期発見・早期治療の重要性を広く伝えるための啓発活動を行った。

② 近畿ブロック会議

日本対がん協会と近畿2府4県の支部が、がん征圧事業の報告や意見交換をする近畿ブロック会議は、11 月 12 日(火)に開催され、参加した。事前に各支部から出された質問に他の支部が答える形式で、検診に関する動向や各支部運営の管理面について有益な情報を交換する話し合いが持たれた。

③ 子宮頸がん・乳がん・肺がん・大腸がん・胃がん検診無料デジタルクーポン券の活用

日本対がん協会が発行しているがん検診無料デジタルクーポン券（合計 35 枚）を活用し、がん検診の受診率向上に取り組んでいる。2023 年度からは、URL 又は QR コードで予約申込をするように変更されている。毎年6月発行の協会報に掲載し、会員等に配付することにより、受診率向上に努めた。

(公益目的事業 2 (公2))

がん研究助成奨励金:がんの研究・治療に従事する医師、看護師らへの助成

【がん研究助成奨励金】

新進の研究者・医療従事者(基礎・臨床・疫学は40歳未満、看護等は45歳未満)を支援する「がん研究助成奨励金」事業は協会の目玉事業である。

同事業は、協会設立翌年の昭和35(1960)年度から始め、今回で 65 回目である。2024 年度は「基礎」「臨床」「疫学」「看護等」の4部門で計15人の贈呈者を選び、各30万円を贈呈した。

今年度は、計 44 名から研究計画の応募があり、外部の専門家など13人の選考委員が採点した結果をもとに 2025 年 2 月 20 日(木)に開かれた選考委員会(委員長＝松浦成昭・協会長)で贈呈者を決定した。受賞者は、今回で延べ 1805 人、奨励金の総額は4億 3360 万円となった。

なお、今年度は、2025 年 3 月 18 日(火)に贈呈式及び祝賀会を開催した。

2024 年度の選考結果は、次のとおりである。

応募者数:基礎 18 件、臨床 15 件、疫学 2 件、看護等 9 件 合計 44 件

受賞者数:基礎 5 件、臨床 5 件、疫学 2 件、看護等 3 件 合計 15 件

《会員向け事業》

主に賛助会員向けの特典等として実施してきた事業については、公益財団法人に移行後は「その他の事業」として区分され、2024 年度も以下のような会員向け事業を継続実施した。

(その他の事業 1 (他1)賛助会員サービス:定期的な情報の提供、がん検診の奨励

【情報の提供】

① 協会報

協会報は、6月・12月の2回発行した。各1000部印刷し、内容は以下のとおりである。

発行月	主 な 内 容
6月号	2023年度がん研究助成奨励金・受賞者紹介、がん医療 展望 vol.19「がん患者の高齢化」、会員のみなさまへのお願い、2024 年度がん検診無料デジタルクーポンのプレゼントキャンペーン
12月号	2024年度がん研究助成奨励金の募集内容、秋の啓発イベント報告(成人病公開講座、がん予防キャンペーン大阪)、がん医療 展望 vol.20「今のがん医療を患者はどう評価しているか」、来春のがん検診案内

② 事業概要

「令和5 (2023)年度版事業概要」を8月に発行した。1000部印刷し、会員のほか、関係機関、希望者に配付した。A4判で本文 42 ページ。従来どおり事業報告、決算報告、寄付者名簿などを掲載、がん研究助成奨励金の 2023年度受賞者 15 人の研究内容を 8 ページにわたって紹介している。普及啓発活動の紹介の項目では、協会の主催・共催・後援イベントを掲載した。

【がん検診の奨励】

春・秋のがん検診の奨励 ※胃・肺・乳腺・子宮・大腸（次の①②③共通）

- ① 大阪府医師会保健医療センターによる秋のがん検診（申込期間：2024年9月2日（月）～11月15日（金） 検診期間：2024年10月1日（火）～12月13日（金））を受診奨励のため、会員に対し、「大阪対がん協会 秋のがん検診」とするチラシを事業概要配付時に会員を含む関係者に配付した。
- ② 大阪がん循環器病予防センターによる春のがん検診（申込期間：2025年2月3日（月）～3月28日（金） 検診期間：2025年4月1日（火）～5月30日（金））を受診奨励のため、協会報12月号に掲載し、会員に配付した。
- ③ 日本対がん協会から提供のあった「がん検診の無料デジタルクーポン券（合計35枚）」のプレゼントキャンペーン（予約期限：2024年8月31日（土） 受診期限：2024年12月31日（火）まで）を、協会報2024年6月号において、会員に対し周知するとともに、協会報をホームページにも掲載した。

《協会の運営》

【運営面の状況】

- ① 会員管理システムの再構築及び事務用パソコンの更新について
2024年度は、会員管理システムの再構築を行っており、基本的な部分については、既に完成している。2025年度は、更に事務の効率化を図るための改善に努めたい。
また、事務用パソコンを更新することにより事務の効率化を図っている。
- ② 管理経費の節減について
2024年度は、事務用パソコンの更新に伴って、電話回線、インターネット環境の見直しを行うとともに、パソコン等の保守契約を見直しすることにより、管理経費（通信運搬費、保守修繕費等）の経費節減を図った。
- ③ 賛助会員の確保等について
2024年度も賛助会員は高齢化等により退会の申し出が増えてきている。近年、賛助会費を含めた寄付金が年々減少している状況であるが引き続き賛助会員の増員及び一般寄付等の広報活動を行いたい。
- ④ 正会員の増員について
令和元年度に発足させた正会員制度に基づき、今年度も正会員の増員に努めたが増員には至っていない。来年度も引き続き増員に努めたい。
- ⑤ 遺贈の受け入れについて
2023年度は、2億1533万円の遺贈を受け入れたが、2024年度も新たに2億292万円の遺贈を受け入れた。
2023年度の遺贈は、公益目的事業1（がんの知識・予防等の普及啓発事業）として受け入れたが、2024年度は、公益目的事業2（学術研究への助成事業）として受け入れている。これにより、公1・公2事業の当面の運営資金が確保されている状況である。

【決算及び寄付の状況】

① 令和6年度末の正味財産について

令和6年度末の正味財産残高は、4億4507万円で前年と比較して、1億8873万円増加した。これは、遺贈による使途特定の寄付金2億292万円が増えたことによるものである。

当期経常増減額については、経常収益計が2643万円、経常費用計が2824万円で△181万円となっている。

費用面の主な増額要因は、給与手当、消耗什器備品費及び印刷製本費が増えているが、一方でオンコロモーション認定指導員に係る委託費等の初期費用が不要となったため、委託費が大幅に減額されている。

過去3年間の正味財産の増減は、令和4年度(344万円減少)、令和5年度(2億293万円増加)、令和6年度(1億8873万円増加)という結果となっている。

② 受取寄付金とその内訳について

令和6年度の受取寄付金(会費及び一般寄付金)は、1391万円であるが、指定正味財産より1238万円を取り崩したため、合計2629万円となった。その結果、前年度に比べて90万円増加した。過去3年間の受取寄付金は、令和4年度1655万円、令和5年度2538万円、令和6年度2629万円である。

受取寄付金の内訳は、正会員からの会費収入は400万円、会員は4法人であるが、会員数は、令和2年度から増えていない状況である。賛助会員からの会費収入は197万円、会員数は258件。正会員と賛助会員からの会費収入の合計は、597万円、会員数の合計は262件である。前年度に比べ、金額で10万円の減少、件数では、29件の減少となった。高齢などの理由で賛助会員の退会が多くなり、減少が続いている。

会費以外の寄付金は、34件で2億967万円、前年度に比べ、件数で5件減少しているが金額では、遺贈があったため、2億258万円増加しているが、遺贈を除くと674万円となり、前年度より36万円減少している。

会費以外の寄付金の増減は、やむを得ないかもしれないが、賛助会員の会費収入は、年々減少傾向にあり、今後の事業の継続のためには、賛助会員の増員等、受取寄付金の収入増の対策が求められるため、2025年度は、会員・寄付金案内のリーフレットを見直す予定である。

③ 募金型自動販売機について

飲料メーカーと連携し、「がん征圧支援」を掲げる自動販売機の設置に取り組み、協会の収入増と知名度アップを目指している。現在、募金型自販機は9ヶ所で、令和6年度の年間収入額は、119万円(前年度は、128万円)で少し減っているが安定した財源になっている。